



ともに働き、ともに暮らします

12月3日から9日は**障害者週間**です



皆さんの回りには、障がいがある人はいらつしやいますか。障がいがある人の暮らしは身近に感じられるでしょうか。

障がいがある人に交付される手帳には、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の3種類があります。それぞれ身体障がい、知的障がい、精神障がい交付の対象です。

これらの手帳を持っている人は市内だけで約6,000人。決してまれな存在ではありません。病気や事故で新たに交付を受ける場合もあり、誰にとっても他人事ではないと言えるかもしれません。

障がいの重さは人それぞれで、どんな暮らしをされているかは一概には言えません。が、どの人にも得意なことと苦手なことがあり、身の回りのことや仕事のことなどで、障がいのない人と同じように、悩んだり努力したりしながら、毎日を暮らしていらつしやいます。

障がいを身近に感じていただくため、そしてともに働きともに暮らししていくため、市内在住で、身体障害者手帳や療育手帳をお持ちの2人にお話を聞かせていただきました。

◆ いわさき 唯華さん(22歳)

老人保健施設でリネン関係(洗濯)を担当

私に与えられた仕事があるから、ここでがんばりたい

老人保健施設で働く岩崎唯華さんは、昨年12月から現在の職場で働き始めて、ちょうど1年になります。平日は毎日出勤し、利用者の衣服や施設で使われるリネンなどの洗濯を担当しています。

岩崎さんに仕事について尋ねると、とても楽しそうに仕事のことを話してくれました。「洗濯物を利用者さんから回収してきて、洗濯機で洗い、乾かしたものをたたんで収納するというのが主な仕事です。ポケットにメガネや小物が入っていることもあるので、洗う前に点検することを心がけています。」

また、収納するときにも名前をもう一度確認して、間違いないよう気をつけていると言います。ミスがないように注意深く仕事に取り組んでいらつしやいます。

今後やってみたい仕事はありますかと尋ねたところ、「や

りたいことというよりも、できることをしたい」という答えが返ってきました。

「障がいがあると、なかなか雇ってくださるところがありません。現在の仕事は、ハローワークで障がい者を募集しているところを紹介してもらって、面接を受け採用されました。こういう仕事がしたいというよりは、雇ってもらったところでがんばりたいという気持ちが強いです。」

ともに仕事をする同僚は家族のような存在

岩崎さんは療育手帳(B1)と身体障害者手帳(6級)という2つの手帳を持っています。軽度の知的障がいと、小耳症と呼ばれる先天性の耳の障がいがあります。

学校を卒業して調理関係の仕事などを2年間したあと、障がい者対象の求人を見つけて応募しました。面接を受けて採用されたのが、現在の



■市内で障害者手帳などを持っている人の数

2013年(平成25年)3月末現在

手帳の種類	人数	備考
身体障害者手帳	4,884	1～6級
療育手帳	679	A1～B2
精神障害者保健福祉手帳	438	1～3級
合計	6,001	



今の職場で雇ってもらって
仕事があることが私にとっては大切なこと。
いつまでも続けられるようがんばりたい。

職場です。

仕事は、岩崎さんが就職する以前からこの事業所で働いていた松田町子さんとふたりでこなしています。

岩崎さんはともに働く松田さんをもうひとりのお母さんのような存在だと話します。

「日によって介護のやり方が変わることもあり、仕事の段取りを変えなくてはならないこともあるので、松田さんと相談しながら進めています。松田さんは私の母と同年代で、とても仲良くしてもらっています。私にとっては職場がもうひとつの家のようなものです。悩みを聞いても

らうこともありますし、なんでも話せる相手です。」

背伸びをせず、ありのままの自分でいたい

「障がいはありませんが、毎日仕事をし、休みの日は家族や友達と、ドライブをしたりごはんを食べに行ったりしています。」という岩崎さん。がんばれと言われるのはプレッシャーになってしまい、あまり好きではないのだそうです。「周囲の人が、『ありのままでもいいよ』と言ってくれるのがとてもうれしいです。」と話してくれました。

社会医療法人畿内会
介護老人保健施設 第2おかなみ
課長 菅原 直人さん
障がい者雇用を進めていくという法人の意向に添って、岩崎さんには正職



員として就労していただいています。障害者手帳を持っているといっても特別なこととはなく、できることをしていただくというところで、洗濯を主に任せています。

入社してすぐの頃は、体調の異変など何かあったときのために、ひとりで作業しないようになど配慮しました。慣れてこられた現在では、障がいがあることも忘れていくほど、ほかの職員と変わらない対応をしています。



岩崎さんとともに働く

松田 町子さん

岩崎さんは責任感が強く、自分の仕事をぎっちり最後まで仕上げられますので、安心して任せられます。娘といってもいいくらいの年齢ですが、私が仕事を休みたいときもひとりでがんばってくれていて、助かっています。

洗濯業務については効率的な方法を積極的に提案もしてくれ、おたがい遠慮なく意見を言い合って、よりよい方法で働いています。





仕事をするのがとても好きです。
お給料で好きなものを買えるのもうれしい。
もっといろいろなことを覚えたい。

◆ 佐橋 明美さん(53歳)

製造工場で製品の
充填・梱包などのライン作
業を担当

ひとりであることが多かった
子ども時代
最初の仕事は「難しかった」

市内の工場で働く佐橋明美さんには、中度の知的障がいがあります。

子どもの頃は、「友だちがいなかった」のだそうで、子ども時代のことを聞くと、「小学生の頃、ひとりで縄跳びをしていて転んだことをよく覚えています。」と話してくれました。

佐橋さんは学校を卒業したあと、お母さんが働いていた縫製工場に就職しました。しばらくそこでの仕事を続けましたが、言われたことがうまくできなくて注意を受けることもあり、数年後、やめてしまいました。

今は仕事が楽しい
これからもずっと続けたい

現在は、ゆめが丘にあるヘアケア化粧品工場の製造ライン

ンで仕事をしています。ベルトコンベアにヘアカラーなどの容器をセットしたり、商品の梱包などを担当しています。佐橋さんは今の仕事がとても楽しいと話します。

「慣れないうちは、ラインに並べるボトルを床に落としてしまうこともよくありましたが、今は失敗も少なくなり、周りの人が親切に教えてくれるので、いろいろな仕事を覚えられました。」

佐橋さんが仕事をしているクリーンルームと呼ばれる部屋では、数人の同僚が作業をしています。その中のひとり、作業部屋の管理補助を務めている島村浩史さんは、佐橋さんをとて積極的に熱心だと話します。

「よく気がついて、作業を進める上でこれでいいのかなどよく聞いてくれます。仕事に対してとても前向きで、いろいろな作業を安心して任せられることができます。」

障がいのある人がいることで
社員がやさしくなった

総務部の立石さんは、障がいのある人とともに働く中で、社員が優しくなったと話します。「障がいのある人たちのグループ就労活動は会社の方針で、現場は上から言われたからそれを受け入れるという形で始まりましたが、ともに働くうちに、社員がどのようにつながら仕事ができるようになるのかなどを考えるようになりました。最近では福祉施設の職員を講師に招いて、自発的な勉強会を開くほどになりました。さまざまな人が工場にいるからこそ、相手のことを考え思いうるようになってきたのかもしれない。」



▲工場で働く佐橋さん（向かって右）と、副管理室長の島村さん（同左）



▲休日はDVDを見て過ごすことも多いのだそうです。最近のお気に入りはこちら。



▲びいはいぶの菊田さんと談笑しながら、夕食をとる佐橋さん。独立した部屋で生活されていますが、夕食は施設が用意した献立を仲間とともに味わいます。

仕事を通したつきあいかから人間関係の広がりも

佐橋さんはグループホームで暮らしています。ワンルームマンションタイプの専用スペースがあり、夕食は共有のリビングで10人ほどの住人と一緒に食事をしています。

社会福祉法人維雅幸育会が運営する事業所であるびいはいぶは、佐橋さんの生活全般に関わっていて、健康管理にも気をつけています。

また、平日は毎日仕事に集中している佐橋さんですが、休日には別の過ごし方があります。今夢中になっているのがボウリングです。「こんなことを言うのは恥ずかしいけど」と前置きをしながら、「ボウリングの練習をしてプロボウラーになりたい」と夢を話してくださいました。

また、私生活でも職場の仲間との出会いが、佐橋さんの生活を広げているようです。数カ月前、職場の仲間やその家族と一緒に釣りに出かけたという佐橋さん。以前から釣りをしてみたいと思っていたそう、海上の釣堀で「タイを4匹も釣ったんですよ」と、楽しそうに話してくれました。

障がい者の生活や就労を支援する

社会福祉法人維雅幸育会

びいはいぶ

びいはいぶは、社会福祉法人維雅幸育会が運営する福祉施設で、障害者総合支援法の就労継続A型・B型とよばれる福祉サービス事業所です。1997年(平成9年)に同法人の上野ひまわり作業所から独立し、知的障がいのある人の就労や生活支援に取り組んでいます。

(株)ミルボンとの関係は、約20年前に内職から始まり、今では利用者とスタッフ総勢30人が「グループ就労」という請負形態で、工場に出向いてライン作業などを行っています。びいはいぶ副主任の菊田さん(写真右下)は、「グループ就労のメリットは、スタッフが同行して一人ひとりの障がいの特性や個性に合わせた仕事の提供と作業指導ができることです。例えば、言葉によるコミュニケーションが苦手な人には写真やイラストなどを活用して仕事のやり方を伝えたり、ご本人にわか

▲びいはいぶ副主任の菊田愛香さん



りやすい支援を心がけています。」と話します。

また、びいはいぶのスタッフは、佐橋さんら一般企業で働く障がいのある人のサポートも行っています。

菊田さんは「企業が直接障害者雇用を行う場合、実は、仕事の内容や指導方法がマッチングせず雇用が継続しないことが度々あります。佐橋さんは、グループ就労で時間をかけて自分に合った仕事を見つけて覚えてから直接雇用していただいたので、社員への転換が大変スムーズに行われたと思います。」と話されました。

知的障がいのある人が能力を生かして仕事に就き、働き続けるためには、その人の特性をよくわかった菊田さんのような人の存在が大きな意味を持つようです。

㈱ミルボン取締役生産部長

村田 輝夫さん

「現在、工場では何人ぐらいの障がいのある人が働いていらっしゃるのですか？」

工場全体で7人の障がいのある方を社員として雇用しています。そのほかに、障がい者施設「びいはいぶ」からグループ就労の方が15人前後来てくれています。

「知的障がい者のグループ就労を積極的に受け入れておられますが、それは企業にとってはどんな意味があるのでしょうか。」

びいはいぶのグループ就労は、障がいのある利用者がスタッフと共に工場に出向き、ライン作業を行うという形態です。

会社は定められた納期までに一定の生産を依頼するだけなので、何人で作業をするか、どのように作業を進めるかなどは、びいはいぶにお任せしています。請負契約として、そのコストや条件は一般の下請業者と同じにしている



ため、会社にとっては特別なデメリットもメリットもありません。

障がいのある方にとってはより一般雇用に近い形態での作業の機会が増え、障がい者施設にとっては工賃向上や就労支援の充実が図れるという面で、大いにメリットがあるのではないのでしょうか。

びいはいぶから社員に登用した3人については、グループ就労を通して仕事に対する姿勢や社会人としてのルールを身に付け、スムーズに雇用につながっています。

「知的障がいのある人を社員やグループ就労として受け入れることで、よいこと、不都合なことはありませんか。」

仕事熱心な方が多く、毎日休まずコツコツと仕事をしてくれるので、助かっています。

また、びいはいぶのスタッフが、社員として登用した方にもグループ就労の方と同様に、いつも身近にいて生活面や精神面のフォローをしてくれるので、会社としては安心して働いてもらえるしくみができています。

「ミルボンのように、会社にも社員にも無理がない形で障がいのある人に働く場を提供し続けられるのはどうしてでしょうか。」

障がいのある人の特性や個性を理解して活かすことのできるびい



はいぶスタッフのような福祉のブロー的存在が大きいと思います。びいはいぶには20年前から内職的な作業を依頼していました。そして、平成19年から障がいのある利用者が支援スタッフと共に仕事に向いてもらうユニット型のグループ就労を条件にした仕事を依頼しました。

支援スタッフは、障がいの特性や、一人ひとりにあつた仕事の指導方法などをよく知っていて、そのような人が現場でいつも一緒に働いてもらっていることが、会社の良い職場環境を保つポイントだと思います。

このような企業と社会福祉法人の協力により、障がいのある人が働く場を作るといふひとつのビジネスモデルができています。このモデルが世に広がれば、よりたくさんさんの障がいのある人が企業の中で働く機会が増えるのではないのでしょうか。

■ 障がい福祉に関する相談窓口を設けています

障がいのある人やその家族の相談に応じます。お気軽にお問い合わせください。

相談機関	内容	連絡先
伊賀市障がい者相談支援センター	市が設置している相談専門機関で、市役所内にあります。障がい福祉サービスの利用や地域で生活する上で困っていることなどの相談に応じます。関係機関と連携して必要な支援を行います。	☎ 26-7725 FAX 22-9662 ✉ iga-syougai1@ict.jp
伊賀市障がい者相談員	市の委嘱で活動している相談員です。自身の経験をもとにアドバイスをします。 ○身体：前川款昭（下郡）・福本紀昭（緑ヶ丘本町）・杉山忠勝（上野桑町）・坂本元之（坂下）・長谷川光輝（阿保）・浜口恵美子（緑ヶ丘本町） ○知的：野田一尊（東高倉）・海野啓子（緑ヶ丘西町）・藤島恒久（中柘植） ○精神：森藤歌代子（上野西大手町）	障がい福祉課 ☎ 22-9656 FAX 22-9662

【問い合わせ】 障がい福祉課 ☎ 22-9657 FAX 22-9662